

共生

奈良県生協連

2022年7月

NO.125



奈良県生協連第33期通常総会



奈良子ども食堂ネットワーク



若者応援プロジェクト奈良

もくじ

奈良県生協連第33期通常総会……………	1・2
会員生協からの報告……………	3・4
第1回生協・行政協議会・	
若者応援プロジェクト奈良……………	5
『労働者協同組合法』学習フォーラムinなら…	6

サークルおてんとさん講演会・フードバンク奈良総会…	7
奈良子ども食堂ネットワーク……………	8
「継承する会設立10周年記念企画 PartⅢ…	9
「成年年齢引き下げで18歳から“大人”に！	
若者の消費者被害防止を考える」……………	10

奈良県生協連 第33期 通常総会を開催しました。

2022年6月25日(土) 奈良ロイヤルホテル

6月25日に奈良県生活協同組合連合会第33期通常総会を開催しました。2021年度事業報告、2022年度事業計画・予算案、奈良県生協連2030年ビジョンなどが承認され、新たな一年のスタートを切りました。

3年ぶりにご来賓をお招きし、代議員27名に対し、会場出席10名、委任3名、書面議決14名での開催となりました。総会には、理事12名、監事2名、オブザーバー5名が出席し、奈良県生協連の1年間の取り組みや会員生協の活動報告を共有しました。



奈良県生協連 森宏之会長

森宏之奈良県生協連会長は冒頭の挨拶で、「奈良県生協連2030ビジョンを実現するべく各会員との連携を強め組合員のニーズに応え、地域共生社会づくりに貢献していきたい。会員や関連団体と連帯をすすめ取り組んでいきます」と述べました。

また、ご来賓を代表して奈良県消費・生活安全課長 中森功征様より「県民の消費生活の安定・向上、消費者基本法の精神に則った取り組みが必要であり、ご理解とご協力をお願いしたい」とのご祝辞を頂戴しました。

奈良県社会福祉協議会常務理事 中幸司様、なら消費者ねっと理事長 北條正崇様からもそれぞれお祝いの言葉をいただきました。

全国からいただいたメッセージには、平和と核兵器廃絶に向けた取り組みやSDGsがめざす「誰も取り残さない持続可能な社会」の実現に向けて生協の役割を発揮しようとの呼びかけがありました。

加藤由美理事の司会進行のもとで、ならコープ代議員の藤田有紀子さんが議長に選出され議事に入り、議案の一括



奈良県 中森功征課長

ご臨席いただいた来賓の皆様方(順不同)

- ・奈良県文化・教育・くらし創造部
消費・生活安全課長 中森 功征様
- ・奈良県文化・教育・くらし創造部
消費・生活安全課主事 澤田 真樹様
- ・社会福祉法人奈良県社会福祉協議会
常務理事 中 幸司様
- ・近畿労働金庫
地域共生推進室長 八尾 高伸様
- ・特定非営利活動法人なら消費者ねっと
理事長 北條 正崇様

寄せられた祝辞メッセージ 67件

ありがとうございました。



奈良県社会福祉協議会
中幸司常務理事



NPO法人なら消費者ねっと
北條正崇理事長



司会の加藤由美理事



議長の藤田有紀子さん

提案と各会員生協の活動報告を行いました。代議員27名中、実出席10名、委任3名、書面議決14名の合計27名の出席で審議・採決が行われ、全議案が賛成多数で承認されました。

最後に奥野裕和副会長は閉会挨拶で、「コロナ禍の影響、平和が脅かされている中で環境変化はより厳しくなるかもしれません。社会的弱者、生活者の視点に立ち、ビジョンのテーマである“学び・気づき・つながりあい”の3つの柱で会員、諸団体のみならずと取り組んで参りますので宜しくお願いします」と述べました。

2022年度の役員体制

【理 事】

会 長	森 宏之	員外	理 事	橋本 健太	奈良工業高等専門学校生活協同組合
副会長	奥野 裕和	奈良県労働者共済生活協同組合	理 事	藤本 隼平	奈良女子大学生生活協同組合
専務理事	山本 弘志	員外	理 事	福西 啓次	市民生活協同組合ならコープ
理 事	岡田 昭典	生活協同組合コープ自然派奈良	理 事	福山 明浩	奈良県医療福祉生活協同組合
理 事	城本 壘	生活クラブ生活協同組合	理 事	吉田 由香	市民生活協同組合ならコープ
理 事	谷垣 晴香	奈良教育大学生生活協同組合	監 事	稲津 和之	奈良県労働者共済生活協同組合
理 事	鶴谷 将彦	奈良県立大学生生活協同組合	監 事	三田 幸子	市民生活協同組合ならコープ

2022年度重点課題

- (1) 生協の事業発展を通して、協同組合の理念と価値を広め、地域共生社会づくりに貢献します。
- (2) 会員のための連合会として会員の健全な発展を支援します。
- (3) 地域社会に対して生協の窓口としての役割を果たします。また、同時に県行政や諸団体と地域とのネットワークの一翼を担います。

承認された議案

- 第1号議案 2021年度事業報告・決算関係書類承認の件
(修正提案含む)
- 第2号議案 2022年度事業計画及び予算案決定の件
(修正提案含む)
- 第3号議案 奈良県生協連2030年ビジョン承認の件
- 第4号議案 役員選任の件
- 第5号議案 役員報酬決定の件



お疲れさまでした。
今期で退任される理事



宜しくお願いします。
新任理事



(左から) 加藤由美さん(奈良女子大学生協)、山部洋幸さん(奈良県立大学生協)、石間奈穂子さん(奈良教育大学生協)



(左から) 鶴谷将彦さん(奈良県立大学生協)、谷垣晴香さん(奈良教育大学生協)、藤本隼平さん(奈良女子大学生協)

会員生協からの報告



奈良女子大学生活協同組合

矢野 超さん

ならコープ様の大学生協への寄付で企画した食堂・カフェのメニューは、来店の方々に利用され大好評でした。若者応援プロジェクト奈良では、当初は困っている学生がどれだけいるのかわかりませんでしたが、食料支援募集開始わずか20分足らずで定員になり、あらためてたくさんの学生が困っていることがわかり1年を通じて支援ができました。ご支援ありがとうございました。事業では、オンライン授業関連のパソコンや文具は好調ですが食堂や食品は苦戦中です。そういった状況ですが学生委員会WINDYが、オンライン企画の「オムライスフォトコンテスト」「おうちでチャリ点」(自転車)

を安全に乗るためのセルフチェック講座)等に取り組みました。

奈良女子大学と奈良教育大学は、奈良国立大学機構として法人統合され、奈良女子大には日本初の工学部が誕生しました。また、新しい寮もでき大学は変化してきています。変化していく大学の中でも生協は生協らしく組合員にお役に立てるようこれからも取り組んでいきます。

奈良県医療福祉生活協同組合

堀脇 純子さん



新型コロナウイルス感染症拡大の影響で外来診療は苦戦し、保健予防はインフルエンザワクチンの不足のため予算は未達でした。しかし特定検診・胃カメラ検診の増加と経費削減で経営剰余金予算を達成することができました。

コロナ禍で約7ヵ月間活動は中止しましたが居場所づくりでは、すこやかカフェの開催、地域で健康づくり交流会などお出かけできない方々の憩いの場となりました。つながりづくりでは、各地域委員会で組合員とつながるために地域委員会通信や私のつながりチャレンジ2021の発行、手配りボランティアさんとのつながりが持てました。組合員・地域の方々に寄り添うために医療とくらしの相談窓口、みみなし診療所懇談会、くらしの懇談会などに取り組みしました。奈良県医療福祉生活協同組合は、この3月に創立10周年を迎えました。「人と人とのつながりづくり」「居場所づくり」を基本として組合員や地域の方々のすこやかなくらしと健康づくりをすすめるために事業と活動に取り組んでいます。



奈良県労働者共済生活協同組合

後藤 唯治さん

2022年度は4つの基調として活動を展開していきます。特にたすけあいの輪を広げること、また保障を中心とした生活も含めたサポートをお役立ち発想の中で展開していきます。社会課題と連動した共創活動として防災・減災運動では平常時から意識して備えていただけるように住宅保障相談や防災豆知識冊子の配布などをしてきました。また、「7歳の交通安全プロジェクト」に取り組んでいます。未来ある子どもたちを交通事故から守っていくためにマイカー共済の見積もり1件につき1本の横断旗を交通安全母の会へ寄贈する取り組みを「共創活動」として展開しています。寄贈本数は年々増加しており、2021年度は1,275本でしたが2022年度は1,400本を目指しています。

昨年6月からフードバンクの取り組みを開始しました。皆さまからいただいた食材はフードバンク奈良へお届けしています。取り組みは継続しますのでご協力をお願いします。

奈良工業高等専門学校生活協同組合

橋本 健太さん



高専生協は昨年創立25周年を迎えましたのでその取り組みをご紹介します。5年前の20周年企画の楽しい企画(大抽選会)を考えましたが、密になるイベントができないこと、同好会のメンバーが少なくイベント運営は困難なため店舗でのセールを中心にした企画を検討しました。

組合員に喜んでいただけるように購入人気商品を25周年にちなんで25%引きとし、豚天甘酢定食500円、ケーキ100円、千葉・茨城でしか販売されていないMAX COFFEEの販売等に取り組みしました。コロナで学校生活が制限される中で、組合員には喜んで貰えたと思います。

第2弾はアイデアトッピングコンテストや組合員参加型企画で食堂メニューのアレンジを募集したところ97通もの応募があり1月に採用メニューを提供する予定でした。しかし、コロナ(オミクロン株)により1月は1日しか営業ができず実施はできませんでした。延期した第2弾は秋頃に実施する予定です。



奈良県立大学生生活協同組合

石間 奈穂子さん

授業はハイブリッド型になり、キャンパス内の学生が減少したため、昼食はお弁当販売をしてきました。

しかし、学生から「もっといろんな種類が欲しい」「麺類が食べたい」「おかずだけ食べたい」などの様々な要望が寄せられるようになりました。「食堂を開けると採算が取れない、しかし毎日は無理でも1日だけならできるのではないかと考え「うどん祭り」を実施しました。「うどん祭り」当日はいままで50人だった利用者が70人になり、学生や先生の反応も良かったことが新しい発見でした。これだけでは採算ベースにはほど遠いですが新しいやり方が見つかり、これ以降「カレーの日」「ラーメンの日」などいろいろな「〇〇の日」にチャレンジしています。昨年理事会のもと、「新しい生協を考える会」を設置し、学生や先生に入っただき奈良県立大生協の事業を継続させるために、自由な発想で話し合う場を設けています。まだ答えは出ていませんが、一丸となって取り組んでいきます。

奈良教育大学生生活協同組合

石間 奈穂子さん

学生委員会では、「地域貢献企画～小学生への夏休み支援」としてコロナ禍の夏休みでも子どもたちが充実できるような「おうち時間」の過ごし方を提供しました。7月22日からYouTubeで動画配信、生協ホームページで資料を配布し、附属小学校の児童にお家でご家族と一緒に視聴し、チャレンジしてもらいました。

内容は、「サマードーム」、「巨大ねるねるねるね作り」、「からくり貯金箱の作り方」、「炊き込みピラフの作り方」、「バケツプリン」など約20コンテンツ動画を作成しアップしました。YouTube再生回数500回を達成し多くの児童に観ていただけました。学生委員は、「今、できること」をテーマに、一から企画を作り実行できたことは大きな自信とやりがいにつながりました。今年は、「ひと夏の大冒険～遊んで学べる楽しい夏～」をテーマに2年ぶりの対面で7月17日に開催します。奈良教育大学と地域の繋がりを活発化してコロナ禍を生きる子どもたちの学びと思い出の場を提供するために手づくりのゲームコーナーやステージ、演劇などの準備を進めています。



生活クラブ生活協同組合

夏目 有香さん

生活クラブでは「サステナブルな人、生活クラブ」をスローガンに持続可能な社会をめざしています。

2030行動宣言を基に活動をご紹介します。1年を通して開催する生産者との交流で組合員が継続して利用することの意味と大切さをあらためて確認しました。また、素材本来の味や食材にまつわる知恵や文化を大切にしています。健康づくりに役立つ食の情報を得るために子育て世代に向けたこどもの栄養や添加物の学習会を開催しました。遺伝子操作に関する署名活動や10年以上取り組んでいるグリーンシステムの取り組みで気候変動対策に取り組んでいます。2021年度から本格化したエコロたすけあい制度はお互いがたすけあう関係性づくりをめざしてきました。コロナ禍を経て地域のつながりの重要性を感じています。限りある資源を未来ある子どもたちと分かち合いながら、人々の豊かな関係性に支えられ、希望のある持続可能な地域づくりにこれからも取り組んで参ります。

生活協同組合コープ自然派奈良

西澤 亜希子さん

組合員のつながりの場は地区くらぶが4、ビジョン達成に向けたチームが10あります。地区くらぶでは生産者学習会、子どもと一緒に物づくり、リユース瓶の学習会、災害時に役立つパラコードブレスレットづくり（パラシュートに使う丈夫な紐）等を実施しました。次にビジョンに関するイベントをご紹介します。商品の分野では食品添加物0を実現したおせちの試食会、アニマルウェルフェアでの学習会、月ヶ瀬健康茶園産地見学等を実施しました。ふうどの分野では、「奈良県豊かな食と農の振興に関する条例」と種子の安定供給についての学習会、はならあとでは種ブローチを作りました。産直の分野では大和ひみこ米の生産者と一年を通じて畑と田んぼの農業体験にたくさんの親子に参加していただきました。つながるの分野では、橿原市・JAならけん・かしはらオーガニックの三者で橿原市の学校給食に地場産農産物等をより一層活用するための協定を締結しました。みらいの分野では、学生と一緒に核のゴミについて考えるイベントを開催しました。



市民生活協同組合ならコープ

松田 美紀さん・松岡 美香さん

誰もが安心してらせる地域社会、みんなが笑顔で生きられる社会の実現をめざして取り組みました。行政からの新型コロナウイルスの自宅療養者への食料品提供の要請には役職員が商品セットに参加して届けました。産地見学や試食学習会ができない中、オンラインで大内山酪農農業協同組合との交流会、活動交流会、商品学習会等を実施しました。商品活動では「ラブコープ2021～声からの新発見～」をテーマに各エリアの店舗でコープ商品を中心にお気に入り商品や店舗での取り組みなどを話題にし交流しました。お買い物中の組合員にも興味深く足を止めて見学していただきました。組合員のつどいは「エシカル商品消費で変わる未来～それは誰かの笑顔につながるお買い物」をテーマに全体で14,335人の参加がありました。組合員・職員で社会的課題の解決をエシカル商品の視点で考え行動することを学びました。ロシアによるウクライナ軍事侵攻に抗議し「声明」「ウクライナ緊急募金」また、ウクライナから奈良県に避難された方々への食料支援などに取り組みました。

2022年 第1回 生協・行政協議会

2022年度第1回生協・行政協議会を5月19日に開催し、中森功征課長はじめ奈良県消費・生活安全課から4名の皆様及び奈良県生協連から14名が参加しました。はじめに奈良県から課の体制と所管業務、今年度の事業の特徴について説明がありました。奈良県生協連から年度方針の報告に続き、参加者から「見守りネットワークの今後の展望」「学生達への消費者教育の可視化」、「食品安全行政における偽装問題や点検・指導強化の要請」、「エシカルやSDGsの消費者行動につながる取り組み強化」などの質問や意見が出されました。安心して暮らせる地域社会づくりをめざした県行政と生協との連携に向け、互いに理解を深めることができました。



若者応援プロジェクト奈良

今年度も継続します



2021年5月から始めた奈良県内の大学生への食料品配布活動の「若者応援プロジェクト奈良」。それを記録した「若者応援物語」を発行し、ご協力いただいた方や関係者にお送りしています。冊子をお渡しする中で改めて感じたことは、いかに多くの方のご協力で支えられ、温かなつながりができたのかという事です。食料配布で大学生を支えるという共通の目的で活動したことで、連帯感が生まれたのかもしれません。お会いすれば皆、にっこり。このつながりは宝物になりました。



新学期に入り、4月22日と26日には、奈良大学、奈良佐保短期大学、奈良県立大学、奈良女子大学、奈良教育大学にお米(5kg入り)635袋とリンゴを配布しました。受け取ったアンケートでもコロナの影響による学生の生活の苦しさはまだ続いていることがわかりました。6月に奈良女子大学生協と奈良教育大学生協に、7月に天理大学でのフードパントリーを計画しています。大学生の中には手伝ってもよいという学生も出てきており、一緒に活動していく予定です。



『労働者協同組合法』 学習フォーラム in なら

～地域を元気にするために働く人を応援します～

5月22日に労働者協同組合法学習フォーラムが奈良春日野国際フォーラム 薨で開催され、57名が出席しました。

このフォーラムは、10月1日労働者協同組合法施行にあたりフォーラム in なら実行委員会が企画されました。奈良県農業協同組合中央会、奈良県森林組合連合会、奈良県生協連の各協同組合が後援しました。

最初に千原崇史日本労働者協同組合連合会奈良エリアマネージャーから開会あいさつがあり、労働者協同組合法施行の経過と全国の状況の報告がありました。

奈良県生協連から「労働者協同組合法と協同組合間連携」をテーマに報告がありました。

映画「医師 中村哲の仕事・働くということ」の上映がありました。藤田徹(社)日本社会連帯機構専務理事から次のような映画の解説がありました。

「医師である中村哲氏が、生涯をかけてアフガニスタンとパキスタンで病や戦乱、そして干ばつに苦しむ人々のために現地の人々と共に働いた軌跡のドキュメンタリー化です。1本の用水路建設で人々の希望が生まれ、協同労働でみんなをつなぎ、その地で住み続けることができるようになった内容でワーカーズコープに通じるものがあり、映画づくりに参画しました。」

高成田健日本労働協同組合連合会事務局長からワーカーズコープの事例紹介、労働者協同組合法第一条の目的、相談窓口の紹介などがありました。既に全国から設立支援の問合せが来ており対応されているそうです。



青木美紗奈良女子大講師から「今、なぜ協同組合か?」をテーマに①協同組合の理念と仕組み、②グローバル化と行き過ぎた資本主義の中で今なぜ協同組合が大事なのか、③労働者協同組合への期待について講演されました。協同労働という働き方や考え方が普及して行くことにより、既存の協同組合との連携による地域内経済環境が構築され、労働者協同組合は社会問題を出さないあるいは解決する可能性が秘められていると期待されました。

「持続可能な地域づくりに労働者協同組合法をどのようにいかしていくか」をテーマに上市佳織コープ自然派奈良理事長、奥西武史ならコープ執行役員、保萌々香(たもつももか)奈良女子大学生ボランティアあぐりぶ代表、神川吉章奈良県東事業所長がそれぞれ取り組みを報告しました。

日本労働者協同組合連合会関西事業本部長の前田圭一フォーラム in なら実行委員長から「持続可能な地域社会を目指し、みんなの意見を反映し40年間培ってきたこの協同労働を10月の労働者協同組合法施行を機に協同労働推進ネットワークをつくり展開して行きたい」との閉会挨拶がありました。

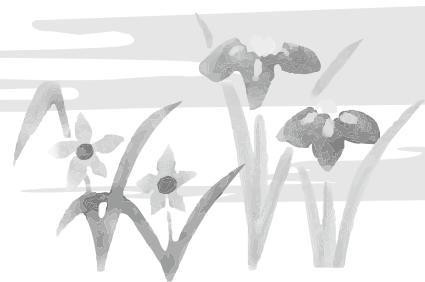
10月の施行前に既に労働者協同組合づくりの活動は始まっています。奈良県生協連は、県内の協同組合、会員とともに支援していきたいと思っています。

サークルおてんとさん総会記念講演会

「行基と長屋王の時代 律令国家・日本の基盤は どのように築かれたのか」

5月25日、奈良県文化会館AB集会室にて、奈良県生協連の友誼団体である特定非営利活動法人サークルおてんとさんの総会記念講演会が開催されました。コロナ禍で絞った定員枠50名が一杯になり、歴史や行基ファンの多さを実感しました。

講師は、1月にも「リオからSDGsへ～水を通して見ると」のご講演をされた尾田栄章さん。今回は研究テーマである「行基さん(668年生まれ～749年没)」について約2時間お話していただきました。尾田さんは旧建設省河川局長まで勤められ、専門知識から古文書に書いてある行基の築造した施設や池(狭山池、久米田池、昆陽池)や溝の幅、長さ、深さなどから事業規模を現代に置き換え当時を探る研究をされておられます。見えてくるのは、「行基集団」の事業は現代の総合開発事業であり国家プロジェクト並みだったということ。行基は当初は為政者から弾圧されていましたが、ある時から認められ、当時この規模の予算を動かせる長屋王との関係に行きついたそうです。「良田百万町歩開墾計画」「三世一身法」が出された時代。水と人との関係は深く、水が確保できれば優良な農地になることを昔の人は熟知していました。行基集団という土木工事をする集団は「道場(寺院)」に寝泊まりし、強い自負と自尊心を持ち、尼寺の存在から女性も活躍する集団だったそうです。従来の定説をはるかに超える行基による開墾事業のスケールの大きさと、律令国家創成期の政権内で繰り上げられた長屋王と行基の関係を推理小説のように紐解かれるお話でした。歴史の秘められたドラマを想像させられ、参加者の皆さんからはもっと聞きたいとの感想をいただきました。



講演される尾田栄章さん



会場は定員一杯になりました

特定非営利活動法人フードバンク奈良総会

特定非営利活動法人フードバンク奈良 第3回通常総会が2022年5月28日ならコープ本部会議室(奈良県奈良市恋の窪)で開催され、オブザーバー含め16名が出席しました。

会員総数22名のうち20名出席(うち書面表決者4名、委任状4名)で総会成立。2021年度事業報告・決算報告及び監査報告、2022年度事業計画(案)・予算(案)すべて特に異議なく承認されました。

コロナ禍で困っている人が多くなっている中で、フードバンクの必要性が求められ、もっともっと賛同を得て、会員を増やす必要があるとの意見が出されました。



総会の様子





奈良こども食堂ネットワーク



つながる!

奈良こども食堂

県内のこども食堂団体のゆるやかなつながりを目指し「奈良こども食堂ネットワーク」(以下、ネットワーク)は平成29年8月に設立されました。この間、会員であるこども食堂は、27団体から88団体(令和4年6月現在)と大きく増加しました。

コロナ禍のこの2年間は、本来の「食事を囲んでみんなで食べる」ことが出来ない状況下でも「つながり」を絶やさないように、お弁当や食材、生活用品などの配布や宅配を実施する団体が増加しました。

また、コロナ禍での子ども達を案じる気持ちは、活動者だけではなく、一般の方や様々な企業の方にも拡がり「こども食堂を応援したい」という問合せも増加しています。

ネットワークでは、奈良県生活協同組合連合会と奈良県社会福祉協議会が共同事務局を担い、こども食堂相互の交流や学びの場づくり、活動に役立つ情報発信などに取り組んでいます。

また「こども食堂」が子どもや子育て家庭を支援する活動だけではなく、世代を越えた地域コミュニティの場へと活動の輪が拡がりを見せる現在、より多くの方に「こども食堂」を知っていただく事も大切な支援の1つと考えています。その一環として、5月15日に『奈良県中央卸売市場45周年感謝祭』へネットワークのPRブースを出展いたしました。前日の会場準備から当日運営まで、ネットワークの世話役の皆さんで取り組みました。当日は、多くのお子様連れの家族が来場され、こども食堂へ関心がある方、また利用してみたいと思っていた方な

どが当ブースへ立ち寄られ、「こども食堂」の広がりを感じられる良い機会となりました。

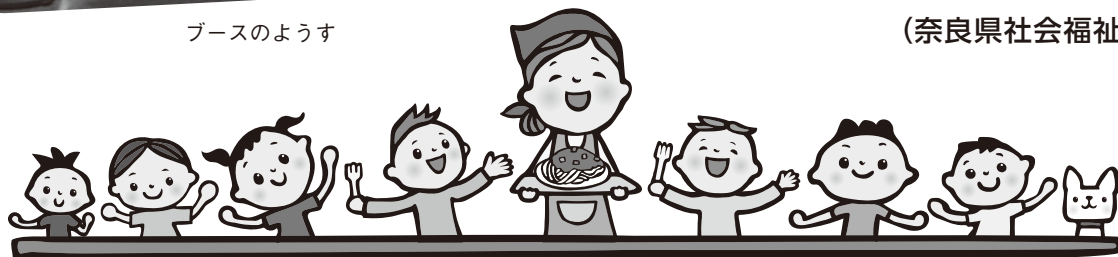
奈良県では「奈良こども食堂サポート事業」として「こども食堂コーディネーター」を配置し、県内のこども食堂を県の施策としても支援しています。

コロナ禍を経験し、あらゆる「つながり」の大切さを再認識したこの2年間、「こども食堂」への応援を引き続きよろしくお願いいたします。

こども食堂コーディネーター 柴崎智美
(奈良県社会福祉協議会)



ブースのようす



「継承する会設立10周年記念企画PartⅢ オンラインシンポジウム 今こそ“ノーモア・ヒバクシャ”で ならコープの「平和ライブラリー」の取り組みが報告されました。

設立10周年記念企画として“ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会”が、5月21日(土)に、PartⅢのオンラインシンポジウムを開催されました。21世紀の今、ロシアのウクライナへの侵略戦争とそれに便乗するように国内で高まる軍拡や改憲の動きを前にして、シンポのテーマは「今こそ“ノーモア・ヒバクシャ”」。継承する会の資料や活動に関わってさまざまな取り組みを進めてきたならコープの岡さんはじめ4人の登壇者によって、今だから果たすべき会の役割について話し合われました。

最初に、「設立からの10年をふり返る」をテーマに継承する会事務局の栗原淑江さんが以下の内容で報告しました。

継承する会の10年間の活動は、被爆者運動とその資料から学ぶことを根底に据えています。①原爆被害の全体像とその反人間性を解明②原爆被害への国家補償③核兵器の廃絶を求めるなどの要求づくりと運動が、“ふたたび被爆者をつくらない”世界を実現する道筋と、それを妨げている被爆国の政策(原爆被害「受忍」政策・核兵器(核の傘)容認政策)を明らかにしてきました。

当日の報告の全体は、継承する会のHP(下記URL)でご覧いただけます。
<https://www.nomore-hibakusha.org/?p=1262>



《パネルディスカッション》

二村睦子継承する会理事(日本生協連常務理事)の司会により、桑原美陽さん(昭和女子大学3年)、四至本鈴香さん(日本青年団協議会 事務局)、岡英幸さん(ならコープ組織部)、濱住治郎さん(日本被団協 事務局次長)によるパネルディスカッション。

1.「とりくんできたことの概要、そこから学んだこと」について3名の登壇者がそれぞれ報告しました。

岡さんは、「奈良県における平和の継承活動～ならコープの平和ライブラリーを拠点として～」をテーマに報告しました。

「平和とよりよい生活」のために1974年に創立したならコープでは、先人から今に至るまで、二度と同じ過ちをくり返さない、ふたたび被爆者をつくらない、そのことを忘れない、ということを大切にしてきました。地域の人々や学生と交流しながら、被爆・戦争体験の継承とは、何を目的に、何を継承するのかを考えてきました。

2006年に解散した「わかくさの会」が発行した3冊の被爆体験集『原爆へ 平和の鐘を』の復刻をめざし関係者をたどっていた入谷方直さんとなつがかり、「ぴーすかふえ」で被爆者運動に学び、*中澤先生の著書から被爆者のからだ・くらし・こころに残る傷を知り、現地訪問で被爆者の証言を聞くなどの取り組みを重ね、2019年10月、コープふれあいセンター六条の一室に平和ライブラリーを開設することができました。開設記念講演には、日本被団協の濱住さん(胎内被爆者)を招き講演していただきました。

平和ライブラリーでは、継承する会の資料整理法にならい、2020年から寄贈された資料の整理も始めていますが、コロナ禍で思うようには進んではいません。しかし、皆で楽しみながら取り組み、生の資料にふれることの大切さを実感しています。つい最近、長年探していた「奈良県原爆被災者の会」(わかくさの会の前身の会)が発行した手記集をお持ちの方に出会い、「平和ライブラリーなら安心してお預けできる」と寄贈していただけたのもうれしいことです。

2020年のオンラインによる第10回国際平和博物館会議には、入谷さん編集の「ならけんのヒバクシャの声」(日・英版)を出展し、奈良から世界の人々に発信することもできました。

3名の報告を受けて、濱住治郎さんが「被爆者運動の歴史に触れて学んだこと」をテーマに報告されました。

続いて、**2.「ロシアのウクライナへの侵攻や国内での勇ましい発言をどう受け止めているか」と3.「継承する会のこれからの活動、あり方を考える」**についても各登壇者が報告しました。(紙面の都合で紹介は割愛します)

最後に二村さんが、「生の資料の力を痛感しました。直接読んで考える体験、疑問を率直に聞き、皆で話し合い、誰かのもっている答えで分かった気になるのではなく、自分の思ったことを一つ一つ大事にしていく姿勢がすごくいい。それをやるためにも、資料が大事なのだなと思っています」「今日の発表もそうですが、むしろ新しい発見や埋もれていたものを掘り起こすことで、世の中に新しい価値が生まれていくことなのだと改めて知りました」と強調され終了しました。

「成年年齢引き下げで18歳から“大人”に！ 若年者の消費者被害防止を考える」

参加しました

5月28日コープふれあいセンター六条でならコープ消費者問題学習会「成年年齢引き下げで18歳から“大人”に！若年者の消費者被害防止を考える」が開催されました。オンライン16人をふくめ29人が参加されました。

2022年4月1日から民法が改正され成年年齢が20歳から18歳に引き下げられました。そのことにより消費者被害が拡大されるなど、様々な問題を生じさせることが懸念されています。講師の※1特定非営利活動



会場の様子



講師 皐月 宏彰弁護士

法人なら消費者ねっと理事皐月宏彰弁護士から、なぜ成年年齢が引き下げられたのか、またそれによって親の同意なくクレジットカード取得や携帯電話の契約ができるが、契約の未成年者取消ができなくなるなどメリットとデメリットについてお話がありました。また、私たち大人でもトラブルに巻き込まれやすいキャッシュレス決済の問題点やオンラインショッピング、SNSによる勧誘など消費者心理を用いた勧誘の問題点などを話された後、私たち消費者の利益を守る「消費者契約法」「特定商取引に関する法律(特商法)」についても例をあげ、わかりやすく解説いただきました。

参加者から

- ・「法律も味方につけよう」は、とすれば難しく考えがちであるが法に照らして、適用する内容をロジカルに説明を受け、理解しやすかった。クーリングオフ、内容証明など日頃耳にするが具体的な内容は知らなかったので参考になりました。
- ・難しい内容をわかりやすく説明して頂き、気づきがありました。やはりコミュニケーションや知ることが重要だと思いました。

学習会の後 特定非営利活動法人なら消費者ねっと事務局長の辻由子さんより活動紹介がありました。多様な団体と連携・協力し、奈良県内の消費者利益を守る団体として※2適格消費者団体の認定取得をめざしていると紹介されました。



辻由子さん

※1 特定非営利活動法人なら消費者ねっと

2013年設立。奈良県内で消費者被害を防ぎ・拡大させないために、不当な事業者に改善を求める活動をする団体。メンバーには弁護士や消費生活相談員がおり専門的な活動のほか、学習会の開催や講師派遣、調査、意見発信など多彩な活動をしています。

※2 適格消費者団体

不特定多数の消費者の権利を擁護するために、差し止め請求(「不当な勧誘」「不当な契約」「不当な表示」などの事業者の不当な行為をやめさせるように求めることができる制度)を適切に行使できる専門性などを満たしたうえで、内閣総理大臣によって認定された消費者団体。

現在全国で23団体

4月

- 19日(火) 奈良防災プラットフォーム
連絡会定例会
- 22日(金) ピースアクションをすすめる会
- 22日(金) 奈良教育大学生協はじめ
4大学でフードパントリー
- 24日(日) 第12回ヒバクシャの声手記
集編集員会
- 25日(月) 奈良県社会福祉協議会との
懇談会
- 26日(火) 奈良県環境審議会水質部会
- 26日(火) こども食堂ネットワーク
世話役団体会議
- 28日(木) 第6回ビジョン検討委員会

5月

- 9日(月) 年度末期末監査
- 19日(木) 奈良教育大学生協通常総代会
- 19日(木) 第1回生協・行政協議会
第7回奈良県生協連理事会
- 22日(日) 『労働者協同組合法』学習
フォーラムinなら
- 26日(木) 奈良県立大学生協通常総会
- 27日(金) 奈良女子大学生協通常総代会
- 27日(金) 奈良工業高等専門学校生協
通常総会
- 30日(月) 奈良県環境審議会
- 31日(火) ピースアクションをすすめる会

6月

- 6日(月) 生活クラブ生協通常総代会
- 9日(木) 奈良女子大学フードパントリー
- 11日(土) なら消費者ねっと通常総会
- 14日(火) ならコープ通常総代会
- 17日(金) 日本生協連第72回通常総会
- 18日(土) コープ自然派奈良通常総代会
- 18日(土) 奈良県医療福祉生協通常総代会
- 19日(日) Peace Now! 奈良 2022
- 20日(月) 若者応援プロジェクト奈良会議
- 20日(月) 臨時監事監査
- 23日(木) 臨時(みなし)理事会
- 25日(土) 第33期奈良県生協連通常総会
2022年度第1回理事会
- 28日(火) 奈良教育大学フードパントリー
- 29日(木) ピースアクションをすすめる会

お知らせ

ピースアクション in なら2022のご案内

日時：10月22日(土) 10:00~12:00 (開場 9:30)

会場：奈良ロイヤルホテル鳳凰の間

講師：川崎 哲さん

ピースポート共同代表

核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)国際運営委員

核兵器廃絶日本NGO連絡会共同代表

定員：会場100名、オンライン100名

参加費：無料

※詳細は8月にHPでご案内します。

編集後記

通常総会が終了し、奈良県生協連2030年
ビジョンを承認いただきました。将来予測は極
めて不透明で不安要素が大きいです。そうい
う時こそ協同の力で「学び・気づき・つながりあ
い」をテーマに笑顔あふれる地域共生社会づく
りをめざしていきます。今後とも宜しくお願い
いたします。

(弘)

最近嬉しかった2つの出来事。“ピースナウ
奈良”が3年ぶりに、リアルで開催された。コ
ロナ禍の影響を乗り越え学生委員の奮闘で1・
2年生につながったし、今年は大学の先生も参
加した。食料支援を受けた学生が、今度は自分
たちが困っている人を支援すると募金を呼び掛
けた“恩送り”の話。

(和)

コロナ感染者の数は少なくなったわけではあ
りませんが、世の中はコロナ前に戻りつつあり
ます。次はサル痘!?そしてエネルギーと食糧危
機!人類は戦争や紛争などしている状況ではな
いのです!

(順)

世の中が動き出し、少しずつ日常が戻ってき
たように感じています。マスクもはずせる日が
早く来ればいいのに…。でもマスクなしは
ちよつと恥ずかしいと思う人もいるようで、本
当に本当に2年は長かったですね。

(佳)

お詫びと訂正 共生2022年4月号に誤りがありました

P7 誤：奈良県医療福祉生活協同組合 専務理事 福山明弘

正：福山明浩

訂正してお詫び申し上げます。

奈良県生活協同組合連合会 〒630-8136 奈良市恋の窪1丁目2-2

TEL 0742-34-3535

FAX 0742-34-0043

URL <https://www.narakenren.coop/>